

拙稿「福島で胃がんが多発している」が、『週刊金曜日』今年3月9日号に掲載されてから、半年が過ぎた。

この記事は、国の「全国がん登録」(全国がん罹患モニタリング集計) データを検証したところ、東日本大震災とそれに伴う東京電力福島第一原発事故が発生した2011年以降、福島県で胃がん患者が多発していることが確認されたため、その事実を報じたものだ。

検証したのは、08年から13年までの6年分のデータである。単に患者数が増えているだけではなかった。統計的に有意な多発状態にあった。

しかも、福島県のがん登録データを精査してみると、注意を払うべきは「胃がん」だけではなく「リンパ腫」や「白血病」も増えているのである。

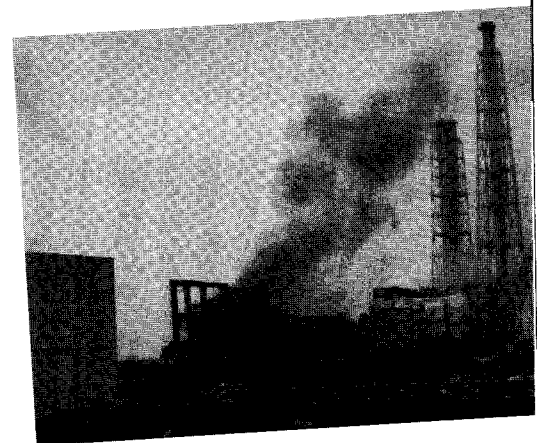
胃がんは3年連続で「有意に多発」

国立がん研究センター「がん対策情報センター」が所管する「全国がん罹患モニタリング集計」の最新データ(14年分)が同センターのホームページ上で公開されたのは、9月15日のことだった。まずは、13年の段階ですでに多

最新

「全国がん罹患モニタリング集計」(2014年)を検証

「胃」「甲状腺」「前立腺」「胆のう・胆管」「卵巣」 福島県で増え続ける がん患者



煙を上げる福島第一原子力発電所3号機。(2011年3月21日。提供/東京電力ホールディングス)

最新の2014年「全国がん罹患モニタリング集計」データが9月15日に公開された。さっそく最新データを用い、福島県におけるがんの発症状況を検証した。

明石昇二郎

る。その結果が「表2」である。福島県では、12年と13年に引き続き、14年も胃がんが男女ともに「有意に多発」していた。3年連続の「多発」である。

悪性リンパ腫と白血病は「小康状態」

福島県の悪性リンパ腫について、08年から14年までのSIRを計算してみた結果が「表3」だ。

SIRが110を超えている13年男性の「95%信頼区間」を求めたところ、下限は97・3であり、100を超えていないため「有意に多発」しているとは言えなかった。また、男女ともに増加傾向にあった罹患数にしても、14年の男性は減少、女性は横ばいである。

同様に白血病に関しても、SIRを示す「表4」。白血病の罹患数は11年以降、男女ともに右肩上がりが増えていたが、14年になって減少に転じている。SIRも100を超えていない。

以上のように、悪性リンパ腫と白血病は増加が収まり、小康状態だった。

甲状腺がんは男性で「有意に多発」

一方、多発していたのは「甲状腺がん」「前立腺がん」「胆のう・胆管がん」「卵巣がん」の4種類のがん

発が確認されていた「胃がん」について、改めて検証する。疫学的手法で「標準化罹患率比」(標準化発生率比ともいう。略称は「SIR」)を計算してみたのだ。全国平均を100として、それより高ければ全国平均以上、低ければ全国平均以下を意味する。

福島県の胃がんについて、08年から14年までのSIRを計算した結果は「表1」のとおり。11年を境に、男女とも全国平均を大きく超えてしまっている。ちなみに国

立がん研究センターでは、SIRが110を超えると「がん発症率が高い県」と捉えているようだ。そこで、このSIRの「95%信頼区間」を求めてみた。分かりやすく言えば、それぞれのSIRの上限(正確には「推定値の上限」と下限(同「推定値の下限」)を計算して出し、下限が100を超えていれば、単に増加しているだけではなく「統計的に有意な多発」(＝確率的に「偶然」とは考えにくい多発)であることを意味す